

# はあもにい

No.321

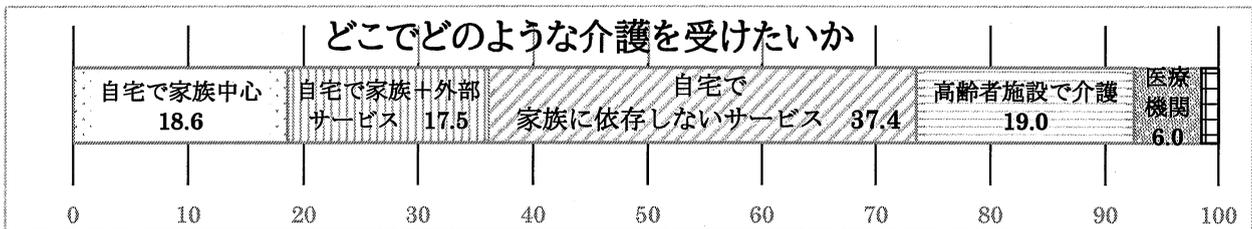
2022年

9月号

(有) 静岡健康企画 ことぶき薬局 TEL055(977)6024 たまち薬局 TEL054(251)1678  
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 みかん薬局 TEL053(584)2230 いちご薬局 TEL055(946)6430

## 毎日の生活に介護が必要になった時、どこで介護を受けたいと考えますか？

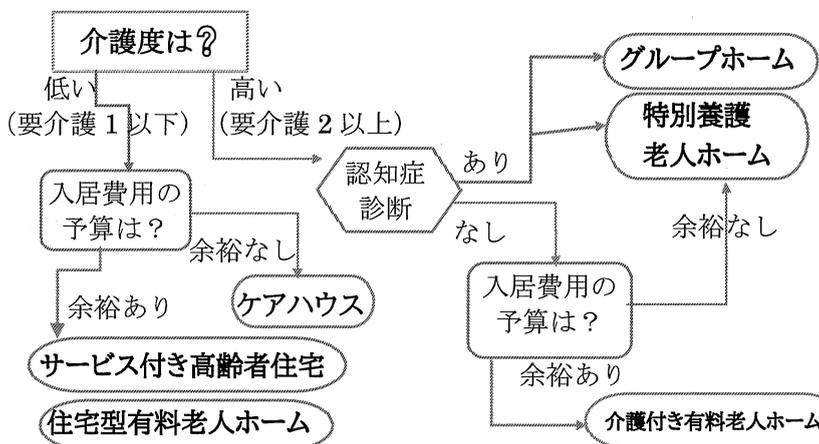
2016年厚生労働省の「高齢社会に関する意識調査」において、40歳以上の男女に尋ねた結果、「どのような介護を受けたいか」については家族中心が18%、家族と介護サービスの組み合わせが17%、家族に依存しない介護サービスが37%、高齢者施設で介護が19%でした。介護が必要になってもご自宅での生活を望む一方で、家族に負担をかけないで生活したいとも考えていることが分かります。



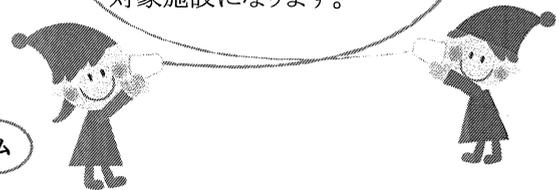
65歳以上の一人暮らしが増加傾向にあり、夫婦のみの世帯と合わせると65歳以上の人のいる世帯の約6割が高齢者のみの世帯となっています。家族に依存しない生活が現実的に必要となってきている状況においては、施設で生活するという事は選択肢の一つになってきます。

## どんな施設を選べばよいでしょうか？

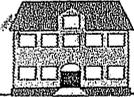
施設を選ぶにあたっては、入居後にどのように生活したいか具体的にイメージすることが大切ですが、まずは介護度や認知症の診断を受けているか、入所費用の予算、入居の時期や空き状況、医療的処置の有無等から適した施設を絞り込んでいきます。



このチャートは施設選びの1例です。必須の入居条件もありますが、相談によって可能な場合もあります。医療的な処置がある場合には、老人保健施設や介護医療院が対象施設になります。



高齢者施設にはいろいろな種類があり、それぞれに特徴があります。

	対象	特徴		費用※	認知症
		メリット	デメリット		看取り
 ケアハウス	60歳以上で 自炊はできないが日常生活は自立	利用料が安い。家庭環境や経済状況等で家族同居が困難な高齢者が利用できる。	介護度が高くなると退去しなければならない場合がある。介護や医療のサービスが限定される。	初期費用 30万程度 月額 7～15万	軽度の場合受け入れ可 受け入れ不可
サービス付き 高齢者住宅	自立 (介護認定なし) から 要介護まで	一般の賃貸住宅扱いであるが、バリアフリーで高齢者が住みやすく借りやすい。多額の入居金を必要としない。	重度の介護状態では住み続けられない施設がある。施設によって提供されるサービスに差がある。	初期費用 0～数十万 月額 10～30万	施設によって受け入れ可 施設によって受け入れ可
住宅型有料 老人ホーム		生活を充実させるためのイベント等が充実している。外部の介護サービスを選択できる。	介護度が高くなると入居困難になる施設がある。医療体制が整っていない施設がある。	初期費用 0～100万 月額 15～30万	施設によって受け入れ可 施設によって受け入れ可
介護付有料 老人ホーム	要支援1から 要介護5まで	24時間体制で介護サービスが受けられる。医療ケアに対応できる施設が多い。提供されるサービスの幅が広い。	費用が高い。 自立で入居できる施設が少ない。	初期費用 0～数百万 月額 15～30万	受け入れ可 受け入れ可
特別養護 老人ホーム	要介護3から 要介護5まで (※特例もあり)	費用が安い。 24時間介護スタッフが常駐している。	医療的ケアが必要な場合、受け入れ困難な場合がある。	初期費用 なし 月額 5～13万	受け入れ可 受け入れ可
グループ ホーム	認知症と診断され、かつ 要支援2から 要介護5まで	軽度から中等度の認知症に特化した施設。認知症ケアに長けたスタッフが常駐。少人数。	重度の認知症や医療的ケアが必要な状態では退去を求められることがある。	初期費用 0～二十万 月額 15～30万	受け入れ可 施設によって受け入れ可

※費用には月額基本費(家賃・管理費・食費・光熱費等)と介護保険費等が含まれます。その他(医療保険費、薬など)の費用が含まれる場合もあります。

(上記の施設以外に老人保健施設や介護医療院などリハビリや治療を目的として短期間入所する施設もあります。利用には要介護の認定を受ける必要があります。)

施設を選ぶにあたっては具体的な生活をイメージし施設が対応可能であるか確認することが大切です。



施設選びはいつ、どのように始めたらよいのでしょうか？

施設での生活を考える時は”ある日突然に”起こることも稀ではありません。まだ大丈夫と思っている時にこそ、「介護が必要になったらどうするか」をご自分だけでなく家族と話し合っておきましょう。

いずれは施設に、と考えているのであれば今のうちから施設についての情報収集や見学をし、可能であれば入所申し込みをしておくことも良いと思います。

施設によっては空きがありすぐに入れることもあれば、場合によっては1年以上待つこともあり得ます。複数の施設を申し込みすることも可能です。気に入った施設があれば早くから体験しておくことも良いと思います。まずはお近くの地域包括支援センター、民間の高齢者住宅紹介センター、担当ケアマネジャーにご相談ください。

参考資料: 高齢者向け住まいを選ぶ前に一消費者向けガイドブック 社団法人全国有料老人ホーム協会他編